

野洲小学校

コミュニティ・スクール

6月9日（金）

～みんなが明日また来たいと思える学校に やさしさ・協力・仲間を想う～

学校運営協議会委員への委嘱状交付の後、まずは、子どもたちや先生、図書ボランティアの方々の活動の様子など参観しました。

次に校長より、今年度の学校運営の方針説明があり「みんなが明日また来たいと思える学校に」を子どもも教員も地域の大人も合言葉に、野洲小の子どもたちをみんなで育てていきたいと語られました。



課題としては、「講師が足りない」「超過勤務の問題」「メンタルヘルスの問題」などがあげられ、委員からも「喫緊の課題であり負担軽減を考えた」との意見をいただきました。

地域学校協働活動の「野洲っ子応援団」の図書チームの活動を見学しました。本と本の仕切りや修理の活動をしておられました。地域学校協働活動としてこれから多くのボランティアグループや団体・企業に参加していただくと子どもの学びが豊かになっていきます。地域学校協働活動推進員がコーディネートしています。「学校・地域・家庭、それぞれができることをまず考える」、地域学校協働活動の出発点です。



熟議タイム

「地域がどう手助けするか」
考えてみよう！

- ・「虐待やいじめの問題に取り組んでいかねばならない。まずは、仲間づくりが大切」「親もつながる場づくりが必要では」
- ・「先生が足りない問題は深刻。何とか負担軽減できることはないか検討していこう」「子どもへの対応は、先生だけでなく、いろいろの大人が関わる中で、子どもを見る角度が多い方がいいのではないか」
- ・次回は課題を絞って話し合いを進めます。また、多くの方に知っていただくという周知にも力を入れて協働活動へつなげたいと話がまとまりました。



